

二〇一九年三月八日

富士見えて江の島の沖風光る
庭に干す鹿尾菜磯の香放ちけり
初蝶来野辺の地蔵の肩の上に
あたたかや日がな一日庭いぢり

智恵子
やよい
素秀
菜々

二〇一九年三月七日

園児らは名札に興味梅の園
大鍋に錆釘入れてひじき炊く
春泥を大股で越ゆハイヒール
庭の梅レトロガラスに歪みけ
道なき道走るカーナビ山笑ふ
囀りの主は何処と木々見上ぐ
予想紙に赤ペン走る余寒かな
春雨の雫照る朝女兒生る
虎刈りに若草山の焼け残る
合掌の形に出でし露の臺

せいじ
やよい
満天
よう子
宏虎
こすもす
ぼんこ
なつき
明日香
たか子

二〇一九年三月六日

菜の花の甘き香に満つ河川敷
精錬所跡の荒れ地にあせび咲く
紙雛載せて小さき御所車

よし女
よう子
さつき

二〇一九年三月五日

うららかや夫を助手とす厨事
雛の間見守るふりこ時計かな
昭和なるドールハウスの春灯

菜々
さつき
うつき

暖かや見守り隊とハイタッチ

満天

胎の子も一緒に祝ふ雛まつり
復興を終へたる屋根に春日燦

なつき
せいじ

二〇一九年三月四日

簪にしたしと思ふ梅真白
春光をあまねく受けて遙拝す
日表と日裏の遅速宮の梅
春うららお漏らしの児を追ひかくる
のどけしや境内闊歩ちやぼの群れ
国会の陳問答に春寒し

董雨
ぼんこ
たか子
なつき
さつき
満天

二〇一九年三月三日

遠足の児らを吐き出す電車かな
目鼻なき和紙の雛と存問す
春愁やパンク自転車引き帰る
渦潮やのたうちまはる龍の如
春愁や施設へ入るてふ知らせ

うつき
さつき
智恵子
素秀
やよい

二〇一九年三月二日

広池へ泳ぎ出したる蛙の子
椅子の向き変へて背中へ春日燦
山菜の宝庫深山の野に遊ぶ

さつき
よう子
うつき

毎日句会みのる選・二〇一九年三月一日